

(平成18年11月分)

部 門	市況の概要
野 菜	<p>11月期の野菜の市況については、夏以降、全国的に安定した好天候に恵まれたことにより、主要野菜の生育・作柄は順調で、安定した入荷状況であった。結果として入荷量は、前年並みを確保することができた。</p> <p>価格は、順調な入荷と暖冬傾向による一般消費の停滞から安値基調で推移し、最終的には前年同期を9%下回った。</p> <p>品目別には、かぶら、きゅうり、なす、とまと、ピーマンが入荷増の単価安で推移し、西洋にんじん、ばれいしょは入荷増ながら単価高となった。長大根、白菜、キャベツ、ほうれんそう、たまねぎは、入荷量・価格ともに前年を下回った。</p> <p>根菜類は、入荷が前年並みで、価格は8%安となった。</p> <p>葉菜類は、入荷が9%減少し、価格は17%安となった。</p> <p>果菜類は、入荷が16%増加し、価格は23%安となった。</p> <p>土物類は、入荷が4%減少し、価格は前年並みとなった。</p>
果 実	<p>11月期の果実の市況については、主力品目のみかんが裏年にあたることに加え、高温旱魃の影響を受けたこと、また、九州産地における柿、イチゴに台風被害が発生したこと等によって、結果として、入荷量は前年同期を18%下回った。</p> <p>価格は、入荷減から前年同期を40%上回った。</p> <p>柑橘類は、入荷が33%減少し、価格は81%高となった。</p> <p>りんごは、入荷が9%増加し、価格は9%高となった。</p> <p>柿は、入荷が21%減少し、価格は57%高となった。</p> <p>いちごは、入荷が27%減少し、価格は3%高となった。</p> <p>メロンは、入荷が11%減少し、価格は12%高となった。</p>

主要品目(野菜)	市況の概況
<b>【根菜類】</b>	
長大根	<p>千葉、青森、福井、石川を主力とする入荷。台風等の被害も無く、天候に恵まれたことから各産地ともに生育は良好であるが、暖冬傾向に加え、太物が多いことから単価面で伸びず入荷に影響することとなった。結果的に入荷量は、前年同期を3%下回った。</p> <p>価格は、入荷減ながら太物が多いことに加え、加工需要が弱かったことから、前年同期を20%下回った。</p>
かぶら	<p>京都、滋賀を中心とする入荷。天候に恵まれ、各産地ともに生育は良好であり、順調な入荷となった。結果的に、前年並みの入荷となった。</p> <p>価格は、太物が多いことに加え、加工需要が弱いことから前年同期を16%下回った。</p>
洋人参	<p>北海道、長崎、千葉、愛知を中心とする入荷。北海道は、夏場の出遅れた残量が順調な入荷となり、他の産地についても天候に恵まれたことから、順調な入荷となった。結果として、前年同期を7%上回った。</p> <p>価格は、入荷増ながら安値であった昨年よりは高値で推移し、結果として、前年同期を4%上回った。</p>
<b>【葉菜類】</b>	
はくさい	<p>長野、滋賀、茨城を中心に和歌山、九州、下旬から愛知、岡山、兵庫からの入荷。長野産は、降霜もなく下旬まで順調に入荷し、後続産地も旱魃傾向の中、前進出荷となり、出荷の増加が見込まれた。しかしながら、暖冬傾向による消費の低迷が心配されたことから、荷物が地方市場へも分散したため、結果として前年同期を21%下回った。</p> <p>価格は、暖冬により一般消費が伸びず、入荷量は少ないものの結果として、前年同期を26%下回った。</p>
キャベツ	<p>夏秋産地の長野、群馬に加え、愛知、茨城、滋賀をからの入荷。夏秋産地は平年より早く終了し、秋冬産地は生育が良好で、大玉傾向の出荷となった。しかしながら、暖冬傾向による消費の低迷が心配されたことから、結果として前年同期を4%下回った。</p> <p>価格は、量販店、加工業無関係での荷動きが悪く、入荷量は少ないものの結果として、前年同期を44%下回った。</p>

ほうれんそう	<p>徳島を主力に岐阜，京都，茨城，滋賀からの入荷。各産地ともに高温旱魃の影響から豊作傾向となり，2週間程度の前進出荷となつた。とりわけ，岐阜産については，切上りが早く入荷量は減少した。結果として，入荷量は前年同期を7%下回つた。</p> <p>価格は，野菜全体の価格低迷の影響から安値となり，結果として前年同期を17%下回つた。</p>
レタス	<p>兵庫，茨城を中心に徳島，長崎からの入荷。各産地ともに生育・作柄は良好で，大玉傾向となり市場出荷できない物が産地廃棄される中にあって，入荷量は前年並みを確保することができた。</p> <p>価格は，量販店，加工業無関係での荷動きが悪く，出荷ピークの中旬にかけて価格が急落したため，前年同期を26%下回つた。</p>
【果菜類】	
きゅうり	<p>宮崎，滋賀，高知を中心とする入荷。各産地ともに生育作柄が良好で，順調な入荷となつた。結果として，入荷量は前年同期を16%上回つた。</p> <p>価格は，入荷増から，総じて安値基調となり前年同期を33%下回つた。</p>
なす	<p>徳島，高知，岡山，京都を中心とする入荷。各産地とも天候に恵まれ，生育も良好で順調な入荷となつた。結果として，入荷量は前年同期を13%上回つた。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を17%下回つた。</p>
トマト	<p>熊本，滋賀，岐阜，茨城を中心とする入荷。各産地とも天候に恵まれ，生育も良好で順調な入荷となつた。結果として，入荷量は前年同期を33%上回つた。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を26%下回つた。</p>
ピーマン	<p>宮崎，高知を中心とする入荷。夏秋産地の大分，茨城も継続的出荷があり，期間を通して順調な入荷となつた。結果として，入荷量は前年同期を23%上回つた。</p> <p>価格は，入荷増により前年同期を37%下回つた。</p>

<p>【土物類】 ばれいしょ (マーク含む)</p>	<p>北海道を中心とする入荷。小玉傾向ではあったが順調な入荷となり、入荷量は前年同期を3%上回った。 価格は、安価な大玉サイズが少ないとことから、前年同期を8%上回った。</p>
<p>たまねぎ</p>	<p>北海道を中心に兵庫からの入荷。北海道は、ほぼ平年並みの入荷となったが、兵庫産は、暖冬傾向による販売不振から出荷が抑えられることにより、入荷量は、前年同期を5%下回った。 価格は、暖冬により一般消費が伸びず、入荷量は少ないものの結果として、前年同期を8%下回った。</p>

主要品目（果実）	市況の概況
早生みかん (極早生含む)	<p>和歌山，佐賀，福岡，長崎，愛媛からの入荷。各産地ともに裏年にあたることと旱魃による小玉傾向から，入荷量は前年同期を32%下回った。</p> <p>価格は，入荷量が非常に少ない中で，前年同期を78%上回った。</p>
ふじ (サン含む)	<p>長野，青森，岩手を中心とする入荷。各産地ともに作柄もよく，順調な入荷となり，入荷量は前年同期を8%上回った。</p> <p>価格は，小玉傾向ながら，品質も良く下位等級が少ないこともあり，前年並みで推移した。</p>
富有柿	<p>奈良，福岡を中心に京都からの入荷。福岡産は台風の被害から，生産量が減少し，また，奈良産，京都産はカメムシの発生によって正品率が悪く，出荷量が減少した。結果的に，前年同期を10%下回った。</p> <p>価格は，入荷減から前年同期を56%上回った。</p>
いちご	<p>佐賀，熊本，福岡，長崎を中心とする入荷。今年の作型は，九州の各産地ともに1番果と2番果の谷間で減少する出荷量をカバーするために定植を遅らせたことと，台風の被害を受けたことによって当月の出荷量は減少した。結果的に，前年同期を27%下回った。</p> <p>価格は，入荷減から前年同期を3%上回った。</p>
アールスメロン	<p>静岡を中心に高知，熊本，宮崎からの入荷。年々作付面積が減少していく中で，当市場への入荷量も伸びなかつたため，入荷量は前年同期を9%下回った。</p> <p>価格は，入荷減により，前年同期を10%上回った。</p>